

※この取材は3/26に行いました。



# かながわ明日すりーと 14



セパタクロー  
日本代表

撮影=高須力(たかすつとむ)

ないとうとしたか  
内藤利貴選手(26)

\*  
川崎市在住

セパタクローは、東南アジアが起源の近代スポーツ。バドミントンと同じ広さのコートを使用し、腕と手以外を使って相手のコートにボールを入れる、バレーボールとサッカーを合わせたような競技だ。3対3や2対2などで2組がネットを挟んで対戦。ダイナミックな足技の応酬が見どころで、「空中の格闘技」とも呼ばれる。

幼稚園から高校までサッカーをやっていた内藤選手は、母校日本体育大の同好会でセパタクローと出合った。「先輩が『ローリングアタック』という技を決めるのを見て、すごいなと。自分もジャンプ力には自信があったので、アタッカーを志しました」ところが、サッカーの経験があまり役に立たなかったという。「一番違うのは蹴り方。前に蹴り出すのと、上に蹴り上げるのでは体の使い方が全然違います。ボールも小さくて軽いので、繊細さとダイナミックさのメリハリが要求される。そこが面白いところですね」と語ります。

めきめきと頭角を現し、大学時代から全日本選手権の優勝争いの常連に。日本代表の座を射止め、2018年のアジア大会で銀(クワッド種目114人制)と銅メダル(ダブル種目112人制)を獲得。同年の世界選手権でもダブル種目で銅メダルに輝いた。国際舞台で活躍する26歳は「世界最強国はタイ。プロリーグが成り立っているほどです。22年のアジア大会ではタイに勝って金メダルを取りたい」と目標を語る。

得意の打点の高いアタックを決めるべく、足腰の筋力や体幹を地道に鍛えている内藤選手には、JAグループ神奈川からビタミンたっぷりの県産野菜が差し入れられた。内藤選手は、野菜が大好きで、「和食の煮物系が好き。妻が作ってくれるレンコンのきんぴらは最高です」とのこと。頼もしい援軍に感謝していた。

JAグループ神奈川は、神奈川のアスリートを応援しています。

